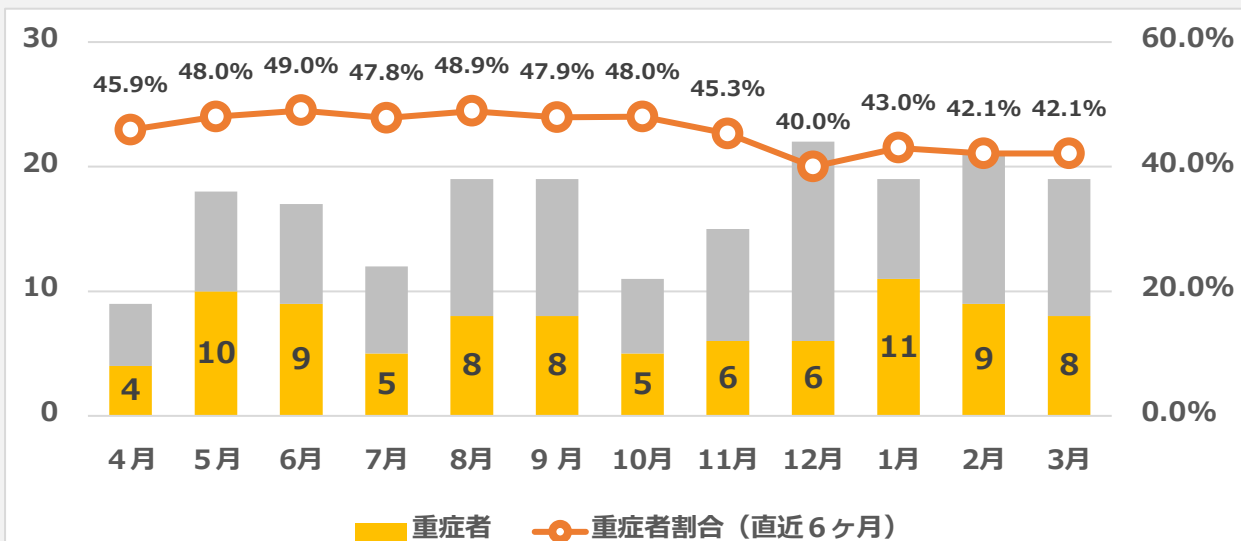


回復期リハビリテーション病棟アウトカム (2024年度)

【入院時指標】

＜西3病棟＞



【施設基準】 ※回復期リハビリテーション入院料2

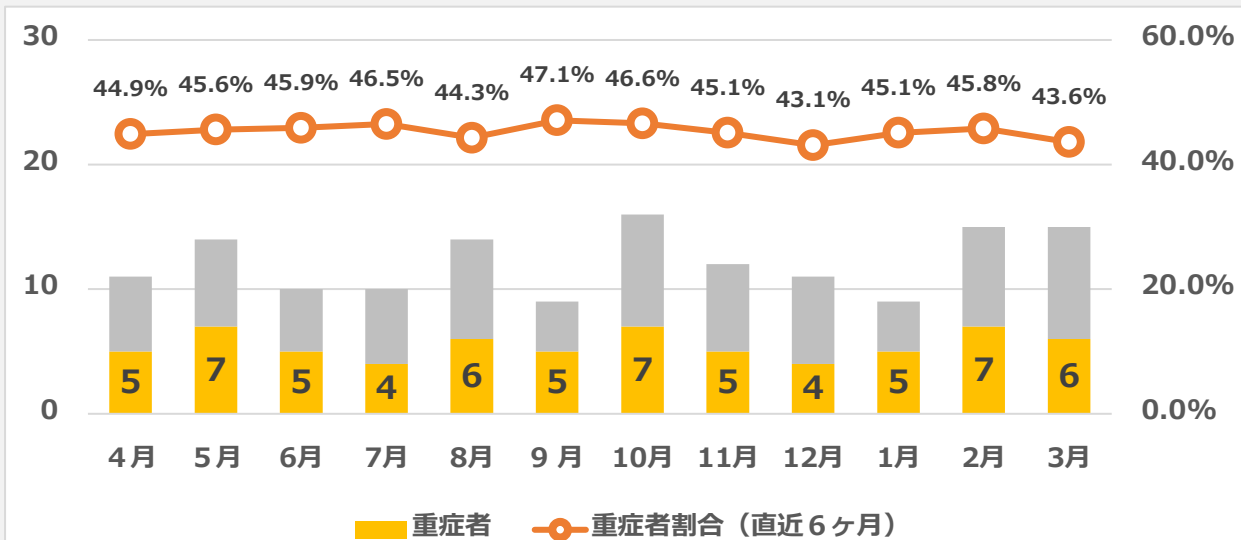
- 重症割合：新規入棟者のうち日常生活機能評価10点以上が40%
(直近6ヶ月) ※再入棟者は除く

【考察】

2024年度に回復期リハビリテーション病棟（以下、回復期リハ病棟）に入棟した患者は、他医療機関からの紹介が約4割、当院急性期一般病棟からの転棟が約6割であった。また疾患別構成は、整形疾患系約6割、脳血管系が約3割と廃用系が約1割であった。

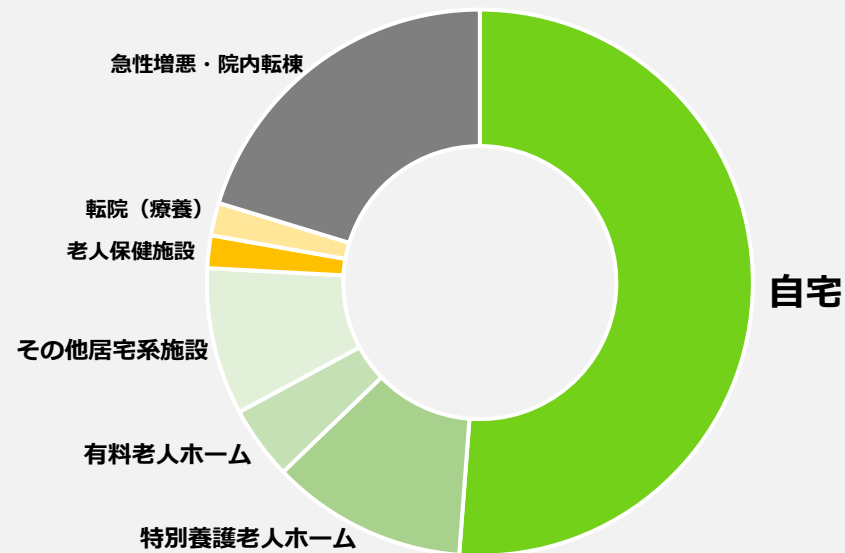
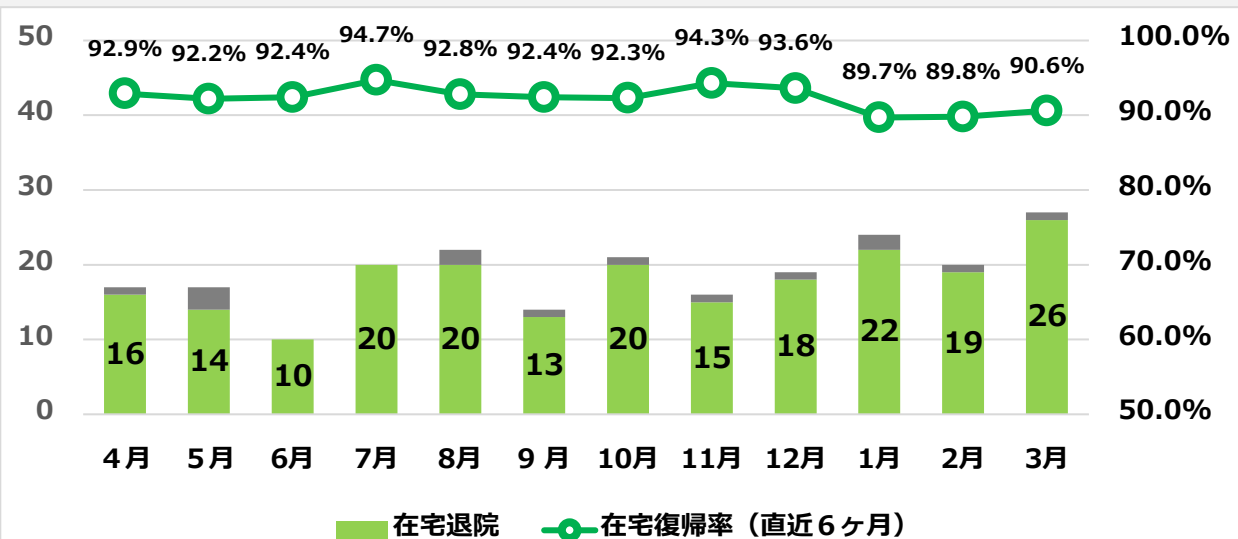
日常生活機能評価10点以上の重症者の多くは他医療機関から紹介される脳血管系・廃用系であるため、施設基準を満たすためには当院急性期一般病棟からの転棟者の状況や、東4・西3の回復期2病棟それぞれの重症度割合も考慮したベットコントロールが重要であり、回復期リハ病棟・連携室・急性期一般病棟のそれぞれの担当者が日々情報交換しながら調整を行なっている。迅速にリハビリテーション目的での入院・転棟ができるよう、より密な院内連携を図っていく。

＜東4病棟＞

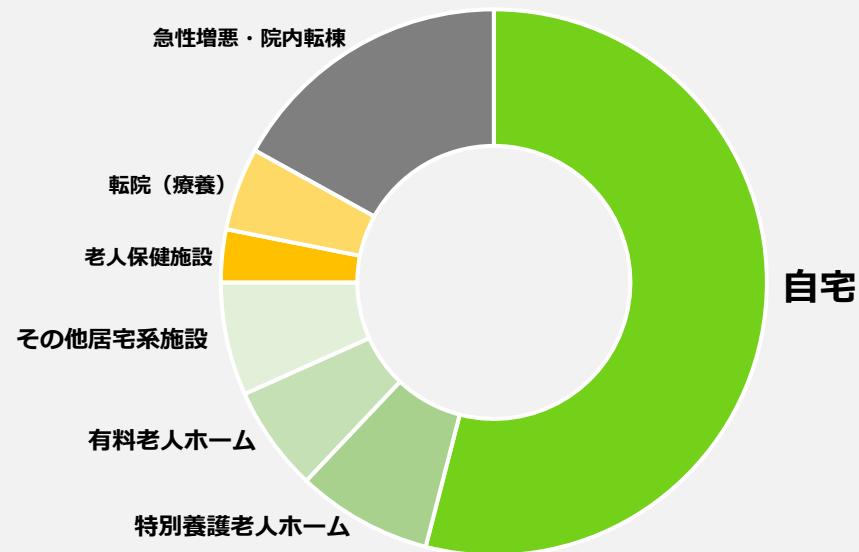
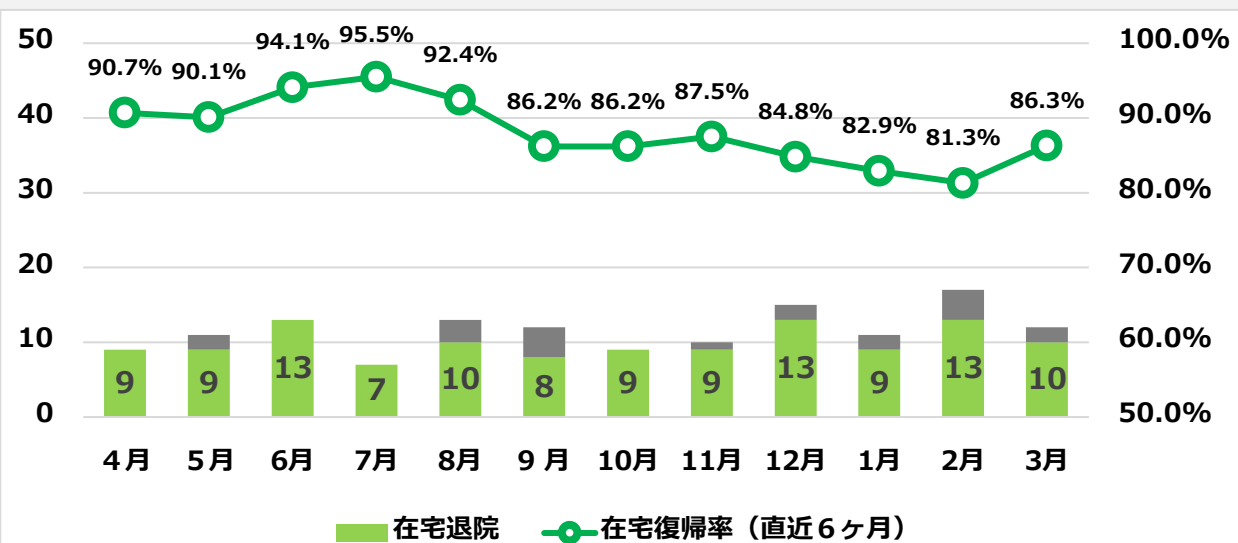


【退院時指標①】

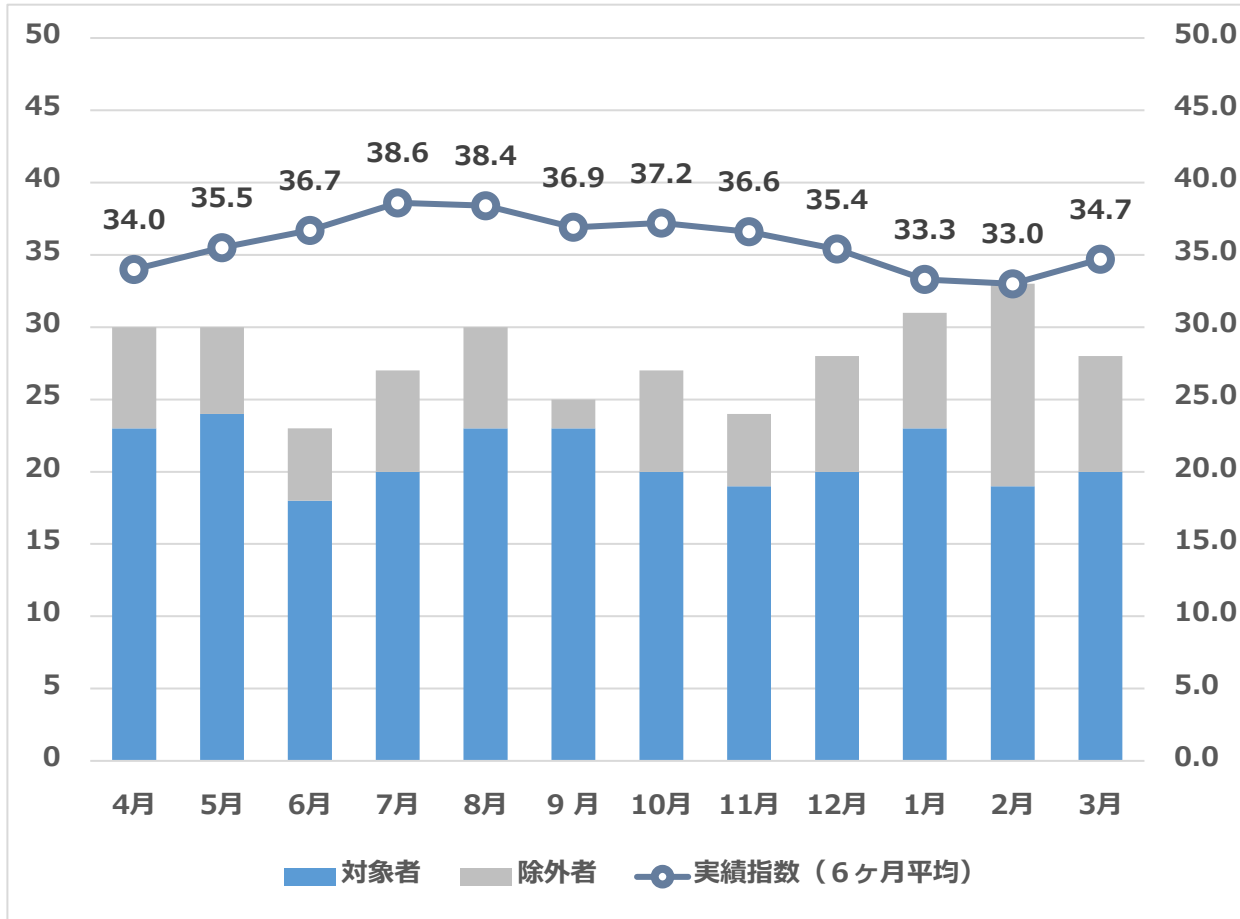
＜西3病棟＞



＜東4病棟＞



【退院時指標②】



$$\text{実績指数} = \frac{\text{各患者の運動FIM利得の総和}}{\text{各患者の(入院日数/算定上限日数)の総和}}$$

【施設基準】 ※回復期リハ入院料 2

● 在宅復帰率：70%以上（直近6ヶ月）

※在宅：自宅、特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、養護老人ホーム
 その他居宅施設（グループホーム、障害者支援施設等、ショートステイ）
 ※急性増悪・死亡退院は対象除外

● 実績指数：27以上 ※2病棟合計で算出

【考察】

2024年度の回復期リハ病棟の転帰先は、自宅での生活再開が約5割であるものの、特別養護老人ホームや有料老人ホームなど個々の患者の状態に応じた在宅扱いの施設への入所もあり、約9割の在宅復帰率となった。これは入院時訪問指導や退院前訪問指導などを積極的に行い、入棟早期より生活再開に向けた課題点の確認するなどの取り組みが高い在宅復帰率を達成に繋がったと考える。しかしその一方で急性増悪・院内転棟したケースも多く、重症度が高い方を多く受け入れている影響が出ている。

実績指数については、重症者や高齢者が多く退院支援に十分な期間が必要であり、その点が伸び悩んだ要因と考える。しかし適切に退院支援を行うことで、スムーズな生活再開が図れ、患者・家族の不安解消にも繋がるため、今後も適切な入院期間の確保と退院支援を行っていく。